優しさと笑顔に感謝

故　木村　弘宣　追悼集

木村弘宣［略歴］

HISTORY

1979年［昭和54年］
2・23 木村邦弘・雅子の長男として札幌市厚別区にて出生
札幌市立小野幌小学校、厚別中学校を経て道立大麻高校を卒業。

1997年［平成9年］
4 小樽商科大学商学部社会情報学科入学

2001年［平成13年］
3 同 大学卒業
4 ㈱日立ソフトエンジニアリング入社（神奈川県）
12 同 退社

2002年［平成14年］
4 日本福祉教育専門学校 精神保健福祉士養成科入学

2003年［平成15年］
3 同 卒業
4 精神保健福祉士取得 札幌へ帰郷し父母と同居
5 精神障害者自立支援施設「のほほん工房」入所

2005年［平成17年］
9 北竜町の若年認知症講演会に姉と参加

2006年［平成18年］
3 「若年認知症家族の会設立準備会」発足
9 さっぽろ高齢者福祉生活協同組合入職
10 同生協有料老人ホーム「イリスもとまち」勤務

2010年［平成22年］
4 介護福祉士取得

2012年［平成24年］
3 高齢者福祉生協 退職
4 医療法人共栄会 トロイカ病院入職

2013年［平成25年］
4 同法人 自立支援援護施設「援護寮元町館」勤務

2014年［平成26年］
2・27 逝去（享年36才）

〈趣味〉フットサル（社会人チーム〝ビアンチェ〟代表）、スポーツ観戦（サッカー・相撲他）、旅行、料理

目次

追悼のことば……03
追悼　北海道精神保健福祉士協会　会長　佐々木　寛……04
〝社長〟へ感謝　川端　秀憲　他……05

福祉の道へ、仲間とともに

日本福祉教育専門学校……08
のほほん工房……11
イリスもとまち……12
援護寮元町館……14
Vianche……16

家族との思い出

生まれ育った厚別の家……18
思い出の家族旅行……19
若年認知症の母を支えて……21
いつまでも忘れないよ……23

資料

キムキムの就労体験記……24
さりげないケアの実践講座参加レポート……25
「A氏の危機介入事例検討会報告」より……26
道新インタビュー記事……27
あとがき

弘宣が生前暮らした
桑園の祖母の実家。
今年はいつもの年より
10日も早く5月1日には
桜が満開となりました。

追悼のことば

弘宣、今日はお前が突然この世を去って二月目の命日だよ。お母さんともお通夜のお別れ以来会ってないから随分気になっていたでしょう。もう心配しなくて良いよ。今日お仏壇を桑園の家からマンションに移して、お母さんと一緒に亜紀子も、敏郎さんも、瑞季君も、響君も、お参りに来てくれて、これからはずっと側にいるからね。

それにしても弘宣は、お父さんの知らない間に、とても多くの人に支えられ、立派な大人に成長していたんだね。これからお前が選んだ福祉の道で、支えを必要としている人々へ返して行こうとしていた矢先だから、さぞかし無念だったろうね。

これからは、弘宣の遺志を受け継いで、障がいがあっても、高齢になっても安心して暮らせる世の中にするために、少しでも役に立ちたいと思うので、天国から見守り、力を貸してください。いつかお前に「親父、良くやったね」と云って貰えるように。まあ取りあえずは、天国版〝Ｖｉａｎｃｈｅ〟を結成して楽しんだらいいよ。

平成二十六年四月二十七日（弘宣二月命日）

父　木村　邦弘

■追■悼■

２０１４（平成26）年２月27日、あまりにも衝撃的なニュースがながれました。北海道ＰＳＷの仲間である木村　弘宣さんが、札幌の職場で利用者であるクライエントによる行為を受け、命を落とされました。彼は、当協会の札幌東ブロックに所属する会員でもあり、毎日懸命に利用者さんと向き合っていたとお聞きしています。

事件の詳細はわかりませんが誠に悲しく切ない出来事です。今回、被害を受けた木村さんも、事件の加害者となった利用者も本当に不幸なこととしか言い表せない気持ちです。

事件後、ご遺族と当協会理事がお会いする機会がありました。その時にご遺族からこんなお言葉を頂戴しました。「息子の仕事であった精神保健福祉士の仕事をしている皆さんや精神保健福祉士を目指す学生さん達に影響がないような活動をして欲しい」とのご要望でした。また、「精神障がいを持つ当事者にとっても、今回の事件で社会的偏見の拡大がないように願っている」とのお話も承りました。

今はただ、仲間のご冥福をお祈りすることしかできませんが、ご家族に頂いた言葉もしっかりと心に刻み、北海道のＰＳＷとして活動を続けたいと思います。

当協会では皆さまの思いを寄せていただく機会も用意いたしましたので思いをお伝えください。

木村さん、本当に残念でなりませんが、お別れするしかありません。

木村さんの思いと、ご家族の思いを忘れずに今後も北海道の仲間と活動を続けます。

合掌

北海道精神保健福祉士協会
会長　佐々木　寛

精神保健福祉士

精神障害のある人が地域で安心して自立した生活を送れるよう、障害を抱える人の立場に立ち、その権利を擁護し、主体性を尊重して多様な生活支援・相談援助を行う人材として、1997年（平成９年）に創設された国家資格。現在登録者数は５万人を越え、精神科ソーシャルワーカーをはじめ、精神障害者福祉施設の生活相談員や行政の労働・福祉・教育分野など広い領域で活動している。

援護寮

もともとは、旧精神保健福祉法による精神障害者の社会復帰生活訓練施設の制度名であったが、2005年に制定された障害者自立支援法によって共同生活援助（グループホーム）と共同生活介護（ケアホーム）に分離された。更に2012（平成24年）障害者総合支援法の施行に伴って福祉施設制度としては廃止された。従って現在の「援護寮」は旧制度とは直接関連のない固有名詞である。

（新聞記事）

施設職員刺され死亡

札幌　入居の男　容疑で逮捕

27日午後3時40分ごろ、同署は殺人容疑に切り替えて調べる。ろ、札幌市白石区菊水元町8の1、社会福祉施設「援護寮元町館」から、職員が刺された石屋興介さん（35）＝同市中央区北14西15＝が倒れているのを発見、同署は殺人未遂の疑いで、その場にいた入居者で無職●●●●容疑者（38）を現行犯逮捕した。搬送先の病院で死亡が確認さ

逮捕容疑は同日午後3時30分ごろ、施設2階の自室で、木村さんの首を刃物で切り付けて、殺害しようとした、殺害容疑。●●容疑者は「職員と口論になり、カッとなって刺した」と供述しているという。

同署などによると、●●容疑者が同日午後、木村さんを自室に呼び、その後、施設事務室に職員を刺した

と通報したという。別の職員が駆けつけたところ、木村さんが血を流して倒れ、同容疑者がそばにたっており、木村さんは胸に複数の刺し傷があり、中には後ろから刺されたものもあった。

施設を運営する法人によると、●●容疑者は2009年に入居し、一人暮らし。これまで特段トラブルはなかったという。

札幌の支援施設　職員切られ死亡

容疑の入所者逮捕

27日午後3時半過ぎ、札幌市白石区菊水元町の自立支援施設「援護寮元町館」で、職員の木村弘宣さん（35）＝札幌市中央区＝が首を刃物で切られるなどし、搬送先の病院で死亡した。札

幌白石署は、入所者の無職●●●●容疑者（38）を殺人未遂容疑で現行犯逮捕した。今後は容疑を殺人に切り替えて調べる。

発表によると、●●容疑者は犯行後、施設の事務室に電話をかけて「職員を刺した」と伝えたため、駆けつけた職員が倒れている木村さんを発見、通報した。●●容疑者は調べに対し、「職員を殺して、自分も死のうと思った」という趣旨の供述をしているという。

この施設は、精神障害を抱える人などが社会復帰を目的として、職員の助けを借りながら生活している。

入所者に刺され職員死亡

札幌の精神障害者施設

27日午後3時40分ごろ、札幌市白石区菊水元町10条1丁目の精神障害者生活支援施設「援護寮」から「職員が刺された」と通報があった。同署などによると、死亡したのは同市中央区北14条西15丁目、団体職員木村弘宣さん（35）。複数回、首を切り付けられていた。男は自らが刺された　と110番通報があった。自己防衛がかけつけたところ、寮の1室で職員が首を切られて倒れており、病院で死亡が確認された。同署はこの部屋に住む無職の男（38）を殺人未遂容疑で現行犯逮捕した。

同署によると、死亡したのは同市中央区北14条西15丁目、団体職員木村弘宣さん（35）。複数回、首を切り付けられていた。男は自らが刺された　と110番通報があった。自己防衛がかけつけたところ、寮の1室で職員が首を切られて倒れており、病院で死亡が確認された。同署はこの部屋に住む無職の男（38）を殺人未遂容疑で現行犯逮捕した。

施設事務室に電話し、木村さんを切りつけたことを伝えてきたといい、同署の調べに、木村さんを殺して自分も死のうと思ったという趣旨の話をしている。

この施設は、精神科などに入院していた患者が退院後、独立した生活をするための支援をしている。入寮者は個室に分かれて暮らしているという。

職員が刺された援護寮＝札幌市白石区元町館

〝社長〟へ感謝

〝社長〟いままで本当にありがとう

社長、こんな形で手紙を書く事なんか想像もできなかったよ。
多分これが最初で最後の手紙になると思うわ。
俺たちは、小学校四年生の時に同じクラスになって初めて会ったよな。その時の記憶ってあまりないんだけどさ、気がついたらいつの間にか友達になって、いつから親友になったのかもわからないくらいだよな。
俺と社長は、タイプは全然違ったけど、スポーツとか俺と社長にしかわからない笑いとかフィーリングがとにかくすごい合ったから繋がれたんだなと思う。35年生きていても社長ほど合うやつは見つからないよ。
中学に上がってからパソコン部に入ったり、卓球部に入ったり、色々あったね。初めて人生初のカラオケに行ったよな。今でもひばりが丘の「おしゃれ音痴」は忘れられないよ。そこから俺と社長のカラオケＬＩＦＥがはじまったね。二人で今まで何回行ったのかわからないくらい行ったよな。
中学校行っていた時は、俺の家が複雑な家庭環境だったからお金に困った時とか助けてくれてありがとう。

自分のことのように喜んでくれた結婚式

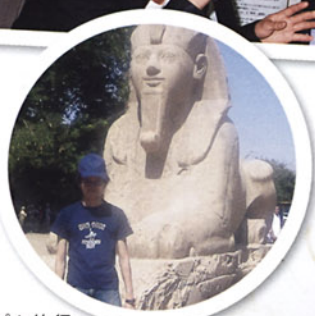
高校に入ってからは、違う高校に行ったから会う機会はあまりなかったよな。
それからお互い東京に行ってまた沢山遊ぶ機会が増えたよな。
二人でカラオケ、居酒屋、温泉、パークゴルフ、スポーツ観戦、本当に数え切れないほど行ったな。
25歳の時に行ったスペイン旅行も楽しかった。どれも最高の思い出ばかりだ。
仕事でいろんな所に行ったけど、その先々に社長が遊びに来てくれて楽しかったし、それが俺の力になっていたよ。ありがとう。
社長は不器用で物事を上手く進められなかったけど、そんな中で努力して前に進んで行く姿に俺は刺激を受けていたよ。
社長の正義を愛する心、笑い、優しさ、全てが大好きでした。
仕事が見つからなかった時や辛い時に励ましてくれた事を俺は一生忘れないよ。
常に俺の良さを言ってほめてくれてありがとう。その言葉がどんなに俺の励みになったかわからないよ。
結婚式の時にも涙が出るくらい喜んでくれてありがとう。でも社長の結婚式にでたかったな。
俺はいろんな人に支えてもらい助けてもらって生きてきたけど、その中の一番大きな支えを突然失って辛いよ。
これからずーっと社長との互いに励まし合い支え合い助け合って楽しんでいくのが続くと思っていたからさ。
正直辛くて辛くて仕方ないよ。まだまだ一緒にやりたかった事が一杯あるんだよ。また一緒に飲みに行きたいし、カラオケ、温泉、そしてコンサドーレの試合観に行きたいよ。
暇があれば互いに電話したりして、いろんな事を話してたのも急に無くなると悲しすぎるわ。
なんだか体の半分持ってかれた感じだよ。神様は残酷すぎるって思う。
簡単に社長を失った辛さは消えないけど社長の分まで頑張るよ。きっと社長のお父さん、お母さん、お姉さん夫婦、みずき君、ひびき君達もそうし

ベビー誕生！

てくれるはずさ。
だから心配しないで皆を見守っていてくれ。
そして俺も社長達親子のような素晴らしい家族を築けるように頑張るよ。
抱いてくれた子供も一生懸命育てて、娘が望めばなでしこジャパンに行けるように育てるよ。
毎年約束の忘年会も池田と継続してくから安心してくれ。
俺の出来る範囲で社長のように助けを必要としてる人を助けるわ。
社長の出来なかった事や、やりたそうな事は可能な限りやっていくから俺の中で一緒に見ていてよ。
最後に社長と親友でいれた事を誇りに思う。
いままで本当にありがとう。
またどこかで会える事を信じている。

川端秀憲

カラオケはよく行ったネ



エジプト旅行

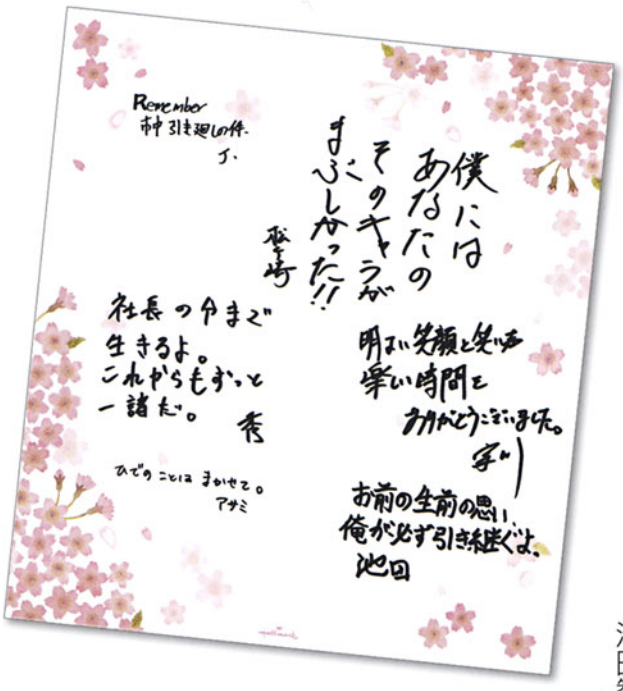
サッカー"バルセロナ"観戦にスペインへ

〝社長〟向こうで俺の生き様をみててくれ

弘宣君との出会いは小学四年生の時に同じクラスになった時だった。その頃から彼の愛称は「社長」とクラスメートから呼ばれていた。
小学五年生に上がった時、彼と私はクラスが離れ離れになるが、弘宣君の親友の「川端秀憲」と同じクラスになり友達になった。
小学校を卒業し中学校に進学した頃に初めて秀憲と弘宣君が親友という事を知ったが、三人で遊ぶ事は無く、私は中学二年の時に隣町に引越し転校することになった。
高校卒業後京都に働きに出て、秀憲とは会う機会がありその時に弘宣君と顔を合わす事が多くなり、そこで初めて親しくなった。
数年後、北海道の実家に帰り、高校時代の同級生から相談を受け依存されて私自身が追い込まれたときに、弘宣君に相談した。
弘宣君は親身になって私の相談を受け、私自身の精神状態も心配し「会って話さないか」と私に言ってくれた。
その頃から私の中で弘宣君は「秀憲の親友」から「親友」へと変わった。
弘宣君、「社長」には感謝しても仕切れない。
それをきっかけに、私は元々人から悩みや相談を聞いたり、人に何かを教える事が好きだという事に気付き福祉の仕事に興味を持ち、社長に相談したら応援してくれて誰よりも喜んでくれた。
そして私は介護士になり働いたものの現実は厳しく収入と現状があわず生活が厳しくなり断念した。誰よりも応援してくれた社長には申し訳ない気持ちでいっぱいだった。その後、私は以前いた京都に戻り「やりたい仕事」を見失い派遣業を営む私を社長は心配し、仕事の相談もしてくれた。
その時に「介護に戻る気は無いか」と聞かれ良い返事が出来なかった事を今でも覚えています。
去年、秀憲が結婚しその時の忘年会で、秀憲の新居で三人が集まり「今年は秀憲の家が忘年会場になったから来年は俺の家でもてなす番だ。」と私は言い、この忘年会が毎年三交替会場持ち周りで続くと思っていた矢先の2月27日に秀憲から電話で社長が亡くなった事実を知らされた。

亡くなった事実を聞かされた時は信じられず、話を聞いた後、私は社長の携帯に電話をかけたが繋がらなかった。
翌日に葬儀場で亡骸を確認した時にも現実が受け止めきれずにいた。
私は今でも思う。
「なんで社長なんや、なんで社長が死ななあかんのや」
この事実は一生背負う事になるだろうけど、私は社長の死を重荷と思う気はない。
社長が生前、私の就職を心配していた問題の解決を社長に誓ったからです。
私は心の中で、社長の亡骸の前で「俺の事は心配するな、就職の事はお前が納得できる様に決めるから。」と誓い、もう一言「もし生前俺が就職あかんで死後社長と合流出来た時、そんな俺をシバき倒したても文句言わへんから。」とも宣言したからです。
だから社長、向こうで俺の生き様をみててくれ、生前の社長からの恩義は俺の生き様を持って答えるから。

池田智一



相撲、音楽、大予言…楽しい思い出

木村弘宣君（以下、社長）とは幼稚園から中学校まで同窓でした。
社長と言えば稀代の好角家であり、その知識は過去の名力士から期待の若手まで多岐に渡り、疑問をぶつければいつも明快に答えてくれました。
また見るだけでなく技の方にも覚えがあったようで、線が細く体重が新弟子検査の規定に満たないのが悔しいと話していました。
今年の初場所のチケットが抽選で当たり、いの一番に社長に声をかけたのですが彼の都合が合わず、残念でした。
社長と私は音楽の趣味も合い、中学生の頃ロックのライブに行きました。私が初めて買ったCDのバンドで、ライブも初めてだったので、よく覚えています。
音楽と言えば、社長が遊びに来た折に作曲をしてくれたことがあります。楽譜を打ち込んで演奏するソフトを使ったのですが、驚いたことにメロディだけでなく伴奏までつけてあり、非常に完成度が高いものでした。
社長とは年賀状をやり取りしていましたが、彼はいつもその年に起きる出来事を大予言と称して書いてよこしました。的中することはごく稀でしたが、政局からアイドルまで多岐に渡る着眼点の斬新さが毎年楽しみでした。
新しい予言も大相撲解説ももう聞けないのは残念ですが、社長との想い出はどれも楽しいものばかりです。
ありがとうございました。

米田　智博

数知れない学生時代の思い出

弘宣君とは小樽商科大学で会計研究会のサークル活動を通じて知り合い、それ以来仲良くさせて頂いておりました。卒業旅行も2人で沖縄へ行き、思い出は数知れません。
横浜で就職した後、今の仕事を目指して狭山へ引っ越してから自宅に伺い、仕事に対する色々な思いを聞かせて頂きましたので、お亡くなりになった事をただただ驚いております。
謹んでお悔やみ申し上げます。

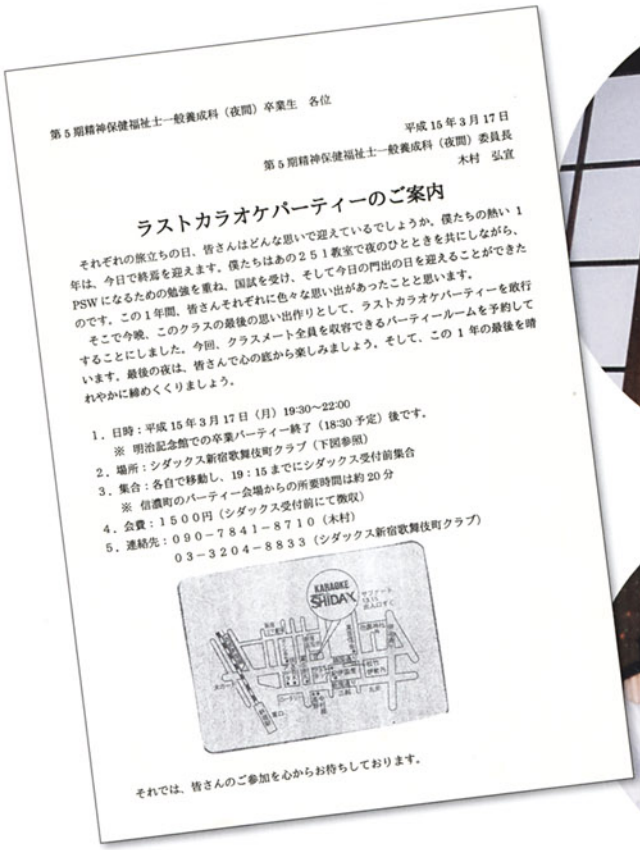
葛西　孝人

福祉の道へ、仲間とともに

共に精神保健福祉士をめざして
――日本福祉教育専門学校――

第５期精神保健福祉士一般養成科（夜間）卒業式（後列中央が弘宣）

委員長のカンパイで
飲み会スタート



第５期精神保健福祉士一般養成科（夜間）卒業生　各位

平成 15 年 3 月 17 日
第５期精神保健福祉士一般養成科（夜間）委員長
木村　弘宣

ラストカラオケパーティーのご案内

それぞれの旅立ちの日、皆さんはどんな思いで迎えているでしょうか。僕たちの熱い１年は、今日で終焉を迎えます。僕たちはあの２５１教室で夜のひとときを共にしながら、PSW になるための勉強を重ね、国試を受け、そして今日の門出の日を迎えることができたのです。この１年間、皆さんそれぞれに色々な思い出があったことと思います。

そこで今晩、このクラスの最後の思い出作りとして、ラストカラオケパーティーを敢行することにしました。今回、クラスメート全員を収容できるパーティールームを予約しています。最後の夜は、皆さんで心の底から楽しみましょう。そして、この１年の最後を晴れやかに締めくくりましょう。

1．日時：平成 15 年 3 月 17 日（月）19:30～22:00
　※ 明治記念館での卒業パーティー終了（18:30 予定）後です。
2．場所：シダックス新宿歌舞伎町クラブ（下図参照）
3．集合：各自で移動し、19：15 までにシダックス受付前集合
　※ 信濃町のパーティー会場からの所要時間は約 20 分
4．会費：１５００円（シダックス受付前にて徴収）
5．連絡先：０９０－７８４１－８７１０（木村）
　　０３－３２０４－８８３３（シダックス新宿歌舞伎町クラブ）

それでは、皆さんのご参加を心からお待ちしております。

木村弘宣くんを「偲ぶ会」

木村さんは専門学校卒業後、地元の作業所に就職したが、お母様が認知症になったことがきっかけで転職。介護福祉士となり、仕事と両立しながら認知症の家族の会にも参加するなど熱心に介護をしていた。お母様が施設に入所されたのちに、精神保健福祉士の仕事を再開されていました。本日、親友の川端さんに最近の木村さんのことを聞かせていただきます。また、本日11：00から北海道では四十九日が執り行われています。お父様は今回の件について、北海道精神保健福祉士協会に介入をお願いされています。また、同級生が集まることを喜んで下さっており、木村さんにコメントを残してほしいと希望されていますので、メッセージを今日の写真と合わせて送りたいと思います。

日　時：2014年4月13日(日) 11：00受付　11：30開始　13：15終了
場　所：日本福祉教育専門学校　高田校舎　221教室
参加者：日本福祉教育専門学校平成14年度夜間コース卒業生有志(17名)、親友川端秀憲さん
司　会：松浦彰久

木村君
たくさんの仲間があつまったよ。
そういえば、いつも木村君のまわりには、あたたかな"愛"があったと思う。
木村君と語りあったこと、支えてもらったこと忘れない。必ず、木村君の想いを仲間に伝えるよ。
松浦彰久

委員長へ
成績表を見せ合ったことを思い出します。クラスの中心人物を亡くし、とても残念です。安らかに。
井上英

木村君とは、日福時代、勉強はそっちのけでサッカー、飲み会、カラオケ、よく遊んでばっかりいた思い出でいっぱいです。彼の姿を2度と見られないのはさびしいです。しかしながら、こうやって、当時の仲間と会えたのは、うれしいです。ありがとうございました。
寺田

専門学校時代の思い出に、必ず木村さん（委員長）がいることを、今日久しぶりに皆で集まりあらためて知ることができました。今自分に何ができるのか全くわかりませんが、決して忘れることなく、できることを探していきたいと思います。笑顔素敵でした。
中村江美子

援護寮での仕事のことや、札幌の精神保健福祉の状況を色々きかせてほしかったです。
委員長に繋いでもらった縁を大切にしながら、これから仕事をしていけたらいいな、と思います。
二ツ川桂子

木村君の後ろの席で毎日しゃべってました。一緒に西武ドームに西武対ダイエー戦の最終戦を観にいきました。楽しい思い出をありがとうございました。
森　政広

木村くんについて一番印象に残っているのは、こどもの頃、お母さまの不注意か何かで顔にキズができてしまったことを、お母様がとても気にされているというのを、自分が本当に辛い、という話です。とても母親想いの優しい方だな、と思いました。どうもありがとうございます。

木村君というより委員長との呼び方のほうが印象に残っています。常に笑顔をたやさず、根っからの真面目人間でしたね。クラス皆の中に今でも委員長は生き続けます。
R.I.P.
黒須信弘

委員長
学籍番号が1つ前でした。
いつもテストの時にふり返ると優しい笑顔でいてくれました。ありがとうございました。
木水明子

いつも笑顔で親しみのある委員長がとても印象的でした。委員長（木村さん）の思いを忘れません。
川又

木村さんへ
突然の悲しい知らせにただただおどろいています。今私は、ソーシャルワーカーとして働いています。同じ仕事をする仲間として今回の事をどう受けとめて良いか悩んでいます。きっと木村さんの事ですからまっすぐに仕事をされていたのでしょう。自分の仕事の場で木村さんの分もがんばりたいと思います。
関　千尋

一生懸命に生きた木村くんの事を忘れません。
何事にも前向きな姿勢を受け継いでいくよ。
藤原成一

委員長へ
本当にお疲れ様です。
学校に行っている時は、あまり話さなかったけど君の存在は大きかったです。今までありがとう!!
瀬戸正史

歓談 木村さんの思い出

・年末にラインを木村さんが始めたようで連絡をくれた。また会いたいねと言っていた。木村さんは以前ちょっと変わった作業所に勤めていたが、見学をさせてもらったことがある。ちょうど2／27に木村さんにメールをしたが返信がなくて、ニュースで事件のことを知り気持ちの整理がつかなかった。葬儀ではみんな整理がついていないようだったが、周りの人たちの温かい気持ちも伝わってきた。同級生のお花が斎場の正面にあって、気持ちが救われた。（北海道出身二ツ川さん）

・（専門学校時代のエピソード①）よくみんなで飲みに行っていた。平岩さんの家に泊まりに行ったこともあった。カラオケでボーイや布袋のポイズンを熱唱して朝まで過ごしていたこともある。みんなでワイワイするのが好きだった。普段は饒舌ではないが、スイッチが入るとエンターテイナーでみんなを楽しませていた。木村君の甲高い笑い声が聞こえてきそう。

・（専門学校時代のエピソード②）実習中低血糖で倒れたことがあった。新聞配達のバイトと実習のかけもちがとても大変でバイトをやめることになった。細いのにタフで、朝はバイト、昼は実習やサッカー、夜は学校の生活をしていた。

・（彼女のこと）飲むと彼女がほしいと言っていた。何かの時には必ずいる人だった。しょっちゅう飲みに行っていた。いつもいたなという感じ。卒業以来会っていなかったが、今日見た写真は変わっていない。（小野さん）

いつも教室の前のほうにいる感じ。いつのまにか「委員長」と呼ばれていた。写真の顔は変わっていない。（佐藤さん）

専門学校時代はちょうどワールドカップのときで、一緒にサッカーを観に行っていた。卒業後は麻布十番で会ったことがある。（中山さん）

関わりはあまりなかったが、名前や「委員長」と呼ばれていたことは忘れていない。印象深い人だったんだと思う。（瀬戸さん）

一緒に飲んだり遊んだり、楽しかった。（寺田さん）

飲み会で一緒だった。いじられキャラを大切にしていた。やさしい、親しみのある感じ。（川又さん）

所沢の「こぶしの」という作業所に行っていたと思う。成績表を見せ合ったこともある。たまに木村さんの顔が浮かんでくる。もう少し深い付き合いがしたかった。（井上さん）

キムと呼んでいた。サッカーを一緒にしていた。木村くんのことだけは覚えていて、今なにやってるんだろうと思うことがあった。何かをもっている人。（藤原さん）

「委員長」だったことを覚えている。細い体でコンサート会場の整理のバイトをしていたというのが印象的。（下新原さん）

事件をきいてすごく動揺した。仕事上加害者になった人に関わるので、うまく整理がつかない。今回のこと大切にしていきたい。（関さん）

学籍番号が近かった。いつもにこにこしていた。模試の結果を見て落ち込んでいた時は声がかけられなかった。（木水さん）

一度だけフットサルを観に行ったことがある。地元が一緒。（二ツ川さん）

席が近く、ほぼ毎日話していた。じゃんけんで勝ち残って「委員長」になったと思う。サッカーのことがすごく好きだった。西武ライオンズ戦を一緒に観に行ったのはいい思い出。（森さん）

「委員長」ということでみんなにコメントを振られて困っていたのが印象的。（黒須さん）

すごく好きでした。明るい人。まさかと思って。悲しかった。すごくいいやつだった。（平岩さん）

直接の接点はあまりなかったが、いろんなことに興味を持っていた人で、間接的に刺激を与えてくれていた。（中村さん）

（今後のこと）

友人として、専門職として、事件のことがわかるのは先になるが、せっかく集まれたので働きかけは続けたい。お互い連絡先がわかるような名簿をまずは作成したい。メーリングリストも作成予定。事例検討会や勉強会など、どんな形がよいかわからないが、年に二回くらい集まれたらいいと思う。一回は2月下旬に。初回はお互いの職場についての情報交換と、今後の集まりについての検討を。今日は次に集まる日取りまで決めたい。いずれ北海道に日程の合う人たちで行きたいと思う。（松浦さん）

精神障害者小規模作業所

「のほほん工房」

精神障害者の共同作業所として全国的に知られた浦河町「べてるの家」をモデルとして、平成9年札幌市平岸に開設した精神障害者小規模作業所。弘宣は、東京の専門学校で精神保健福祉士の資格を取り、札幌へ帰郷後の平成15年5月に支援スタッフとして活動に参加し、本格的に福祉の道へスタートした。

人間として優しい人

私は、のほほん工房でいろいろお世話になりました。
そんなには思い出に残る付き合いは少なかったのですが人間として、優しい人だなと思っていました。
なんか正直頼りない所もあった感じがありましたが(まだ若かったというところもあったのかもしれませんが)
私にはない素晴らしい人格、そして仕事も一生懸命なところが彼の強さだったのかもしれません。
でも、色んな人たちと出会い35年という短い生涯ではあれど精一杯生きてきたんだと実感します。
だから、改めて自分たちも彼が生きてきたことを忘れずに限りない命を大切にしていきたいです。
弘宣さん、今までありがとうございました。

佐久間由起子

キムキム、ありがとう

キムキム、ありがとう。コンサドーレのビジュ選手のこととか話したら、にこにこ話してくれましたよね。一時期離れた時期もあったのに当事者研究実践会で再会した時、「この業界に戻ってきたんだね」と言うと嬉しそうに就職しましたと言ってくれてほんとうに嬉しかった。
キムキムとニックネームをつけた女性の仲間は元気かどうか分からないけど、同じ病院見かけるよ。
いつもお祈りしてます。そして優しい穏やかなキムキムにいつも実はお願いしてる。
僕と僕の父と母と弟、亡くなった祖父母、仲間を守ってくださいと。
絶対忘れないから。キムキムのお母様と僕の母は同じ病になってしまった。キムキムのお父さんにも相談したかった。悲しいよね。でもお母様もお父様も大丈夫。
どうか、僕もキムキムを忘れないから、キムキムも僕らを見守って応援してください。
僕のサポーターになってください。僕は人生で色んな目標をその都度立てて、
サッカーのピッチに立ってゴールを狙うので、応援してください。
ほんとうにありがとう。

中川　勝利

読者の声

消える戦争体験 想像力を後世に

大学生　木村弘宣
（札幌市中央区・21歳）

二十六日のNHK教育テレビ「伝えたしされど・ヒロシマの語り部たち」を沈痛な思いで視聴した。広島での悲壮な体験を後の世代に語り継ごうという「広島を語る会」の切実な思いとは裏腹に、若者の無関心、会員の高齢化、そして会の解散という厳しい現実を突きつけられた。

「語る会」の話の感想を聞かれたある修学旅行生が「遊びを楽しみにしていたのにつまらなかった」と答えた。これが現実なのだろう。

語る会の人は「平和ボケ」だと言う。確かに、私も含め若い世代の人たちは戦争と無縁の社会に生まれた。また、未来の日本に戦時中の貧困が再び訪れることは考えつかないかもしれない。

だが、こうした現状を単に「平和ボケ」と片付けてしまってよいのだろうか。私たちは「想像」することができる。防空ごうの中で必死に耐える人たちの姿、戦後の復興に向け汗水流して働く人たちの姿…。この「想像力」こそ、後の世代に受け継がれるべきではなかろうか。

高齢者福祉生協
〝イリスもとまち〟みんなを代表して感謝

木村弘宣様あなたは平成18年、私たちの生協に来てくれました。そして「イリスもとまち」の開設と共に一緒に多くのことを乗り越えてきてくれました。

色んなことがありましたね。

あなたは何があってもくじけず前向きに明るくふるまい、そんなあなたのひたむきさとどんなことにも一生懸命がんばっている姿とやさしい心にどれだけまわりの人たちは心が癒され救われたことでしょう。

たまに見せてくれる意外なパフォーマンスは沢山の人たちを笑わせてくれました。一昨年前あなたが「イリスもとまち」を去ると決めた時、とても淋しく残念な気持ちでしたが、「真剣に考えた末に〝障害者のために働きたい〟と決めた」という強い志に私たちは強く感動し、そして沢山経験しいつか立派になって戻ってきてくれるのではないかとわずかな期待をかけ背中をおしました。しかし、それはもう叶わないのですね…

こんな形でお別れの日がくるなんて未だ信じられず無念でなりません。

訃報を知った「イリスもとまち」の入居者の方々も〝良い人だった〟〝淋しいね〟〝ずいぶん世話になった〟と大きく胸を痛めていると共に感謝の気持ちでいっぱいです。

いつかまた生まれ変わっても変わらず〝人のため〟にやさしい人であって下さいね。

木村くんあなたは本当にやさしかった。そして強かった。
私たちに沢山のものをくれました。
〝ありがとう〟と感謝の言葉しか出てきません。
本当にありがとう…
これからは空を自由に飛びまわってください。
そしていつかまたどこかで会いましょう。

平成26年3月1日　感謝の気持ちを込めて
「イリスもとまち」のみんなを代表して
長谷川富子

入職式
入職当時はこんなに頼りなくて大丈夫？と思いましたが年月を重ね経験を積んでいくうちに立派な介護職員になりました。（平成18.9.2）

音楽レクリエーションに参加
この頃は主に送迎を担当となりにいる方は良く病院の受診や自宅にまで送っていったり大変気にいられていました。（平成19.6.13）

感染予防研修
自ら積極的に手を上げ、実演に
参加していました。
(平成20.5.21)

職員親ぼく会
宴会では“いじられキャラ”で皆を楽しませてくれました。
(平成20.11.28)

イリス開設後初めての元町町内会の盆踊りに参加。
やぐらのまわりを車イスを押し踊りに参加。
(平成19.8.16)

イリスもとまち夏まつり
介護職員が中心となってヨサコイを披露
この時もキムニイが一番大ウケ!!
(平成21.7.25)

河原理事長にはいつもかわいがられていました。

たぶん初めての親ぼく会２次会
木村くんの“うら芸”に皆大爆笑!!
ほんと楽しかった～ 今でも思い出し笑いしちゃいます。
(平成19.6.30)

援護寮〝元町館〟の皆さんたち

木村さんへの追悼

●出来上がった雪像やイルミネーションを見て、笑顔も見せてくれていたのが、昨日の事のようです。写真を見ると、みんな楽しそうに木村さんと笑っていました。
これまでありがとうございます。感謝の言葉は忘れません。
こころよりご冥福をお祈りいたします。

元町館　富田

元町館のスタッフ

クリスマス
イルミネーションの作成

クイズ大会の
表彰式
（中庭）

ゲーム大会で
wii に挑戦

●ともに働いた時間が昨日のように思えます。天国でもいつも笑顔を絶やさない木村さんでいてください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

南郷館　二木

●木村さんが職場にいると雰囲気が明るくなり、笑顔が溢れていました。短い間でしたが、木村さんと一緒に働くことが出来てよかったです。自分も木村さんのように笑顔の素敵な人になりたいと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元町館　三浦

●いつも笑顔を絶やさず、皆を楽しませてくれていた木村さん。一緒に働く事が出来て本当に良かったです。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元町館　渡辺

カラオケレクでの司会

地域貢献の一環でアンパンマンの雪像づくり

●未だに信じられず、いつものように職場へ出勤するのではないかという気持ちになります。何処にいても変わらない木村さんでいて下さい。心よりご冥福をお祈り致します。

元町館　佐藤

●誰からも愛されていた木村さん。木村さんの優しさが人を惹きつけている事を一緒に働かせて頂き感じました。木村さんの事は忘れません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元町館　平郡

●一番最初に会話したのが木村さんでした。優しくて、いつも助けてもらったような気がします。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り致します。

元町館　杉本

●木村さんと一緒に仕事をして、人の心の温かさを学びました。共に働き、また遅番の帰りのバスなどでいろいろな話をしてとても楽しく過ごすことができました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元町館　芝

●豪快に笑う木村さんがとても印象的で木村さんが居るといつも暖かい雰囲気の中で仕事が出来ました。楽しく仕事が出来てとても感謝しています。
ありがとうございました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

元町館　原口

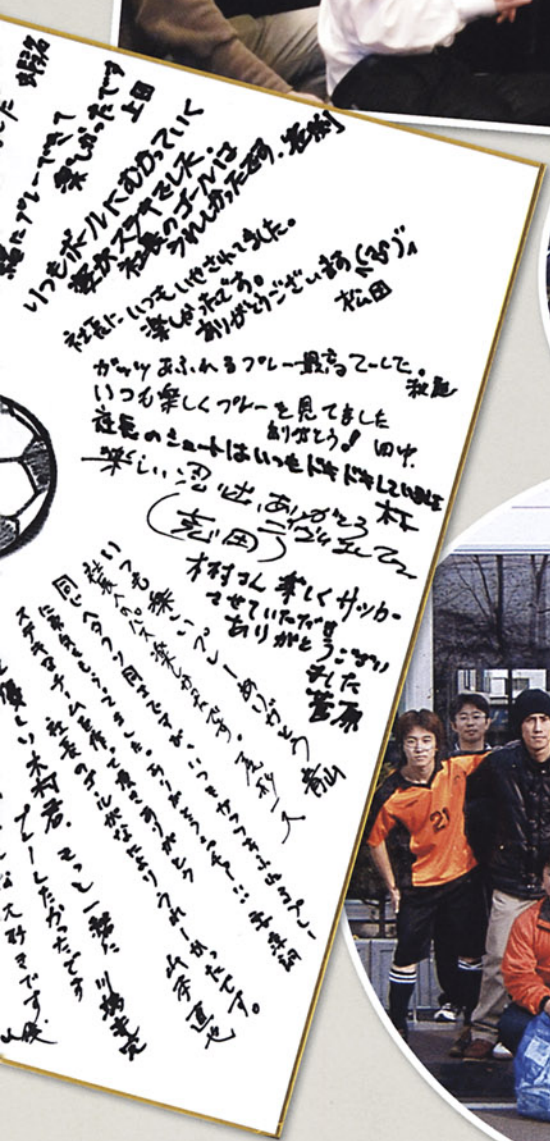
●木村さんはいつも場を和ませ、楽しい雰囲気を作ってくれていました。明るく、やさしい人柄の木村さんと働けたことに感謝しています。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

元町館　永岡

職員送別会の２次会でサプライズの誕生祝い。２日後に満 35 歳。
（平成 26 年２月 21 日）

フットサル Vianche メッセージ

中央のアフロヘアが弘宣



いつもボールにむかっていく
姿がスマートでした。
相手のチームは
うれしかったです。宏樹

それでは、いつもいやされました。
楽しかったです。
ありがとうございました。
松田

がッツあふれるプレー最高でした。
いつも楽しくプレーを見てました
ありがとう！ ゆや
相手のシュートはいつもドキドキしました
楽しい思出、ありがとう
(吉田)
木村さん 楽しくサッカー
させていただき
ありがとうございました
萱原

"Vianche" の仲間達

Vianche

いつもボールにむかっていく姿が、ステキでした。社長のゴールはうれしかったです。

益渕

いつも一生懸命なプレー忘れません。ありがとうございました。

野田優生

社長のアフロで入団しました。フットサルも、ススキノも、楽しい思い出いっぱいです。ありがとう。

馬渕

突然の手紙失礼します
北海道鍼灸専門学校フットサル部　鍼灸ず　初代主将の中村といいます。
中澤友博さんより事件の話を聞き非常に驚いています。
木村さんとは2004年に対戦相手として初めてお会いしました。
お互いチームの代表者として色々大変だという話をしたり、試合中は一緒にボールを追いかけたりと本当に楽しい時間を過ごしました。
今回の出来事は本当に残念です。
木村さんには私達のチームを試合に誘っていただいたり、私達が対戦相手がみつからず困っている時にチームのメンバーさんを集めていただいたりとても感謝しています。
チーム一同過去の試合映像を観て偲んでいます。
悲しい気持ちでいっぱいです。ご冥福をお祈りします。

北海道鍼灸専門学校　フットサル部
初代主将　中村雄太

家族との思い出

生まれ育った厚別の家

姉亜紀子と弘宣が生まれ育った昭和50年代の札幌市厚別地区は、野幌原始林に隣接し小鳥の囀りが聞こえる緑に恵まれた新興住宅街であった。弘宣はその家で小学校から大学までの青少年時代を謳歌した。

生まれ育った厚別の家の前のひまわり公園　いつも姉亜紀子と遊んでいました

今日は、弘宣です！
（昭和 54 年）

厚別の家
（1975 年−1998 年）

虹の森カトリック幼稚園
（昭和 58 年）

石狩浜での初めての海水浴
少々おっかなびっくり
（昭和 58 年）

三笠公園にて
（昭和 59 年）

想い出の家族旅行

父の長期単身赴任先の旭川市を拠点に、夏休みの道北・道東への家族旅行は恒例行事であった。又、父の故郷函館市や母の故郷室蘭市などを中心に道南方面にも度々出かけていた。

二風谷のアイヌ記念館で
（昭和63年）

樽前山の頂上から
支笏湖を望む
（平成元年）

旭川大雪
青少年旅行村の
釣堀で釣った
“ニジマス”で
美味しい天プラ
（平成２年）

登別マリンパーク
（平成３年）

石北峠から知床連山
（平成４年）

“原生花園”
JR小清水駅
（平成４年）

“網走番外地”
（平成４年）

五稜郭公園
箱館戦争記念館
（平成６年）

函館・道南旅行で青函連絡船の船長に
（平成６年）

お父さんと
カラオケデュエット
（平成７年）

お祖父ちゃんの還暦祝で
感謝状を読む
（平成７年）（登別温泉）

雄冬岬展望台
（平成８年）（大学１年）

道南旅行
（平成９年）

若年認知症の母を支えて

弘宣が大学を卒業し就職のため上京した２００１年（平成13年）頃から、母が若年認知症を発症し家族の生活は一変した。
弘宣は母の病状を気に掛けながら就職先のＩＴ企業を退職すると福祉の道を志し、精神保健福祉士の資格を取得した。札幌へ帰郷後は、父を支えて母の介護に関わりながら、北海道の若年認知症家族の会の創設を願い東京の「彩星の会」に働きかけた。

若年認知症の母との思い出づくりに
北竜町“ひまわり公園”
（平成14年）

東京から札幌へ戻り父母と
マンション生活（平成14年）

大好きな千代の富士の
故郷福島町の記念館にて
（平成15年）

道南旅行
“恵山”頂上付近
（平成15年）

母の通うデイサービスで談笑、母もうれしそう
（平成20年）

大倉山シャンツェ
（平成24年）

若年（性）認知症

64才以下で発症する認知症の総称。40代・50代の働き盛りで発症するため、本人・家族の精神的負担と失職に伴う経済的困窮など、高齢者と異なる社会的な困難が大きい。
病態としてはアルツハイマー病と脳血管性認知症が7割以上を占めるが、前頭側頭葉変性症、レビー小体型認知症、アルコール依存症など多様。又年齢が若いため、うつ病や更年期障害など他の病気との区別が難しく診断が遅れる傾向がある。発症率は64才以下の人口10万人に対し42人（厚生労働省調査）で、全国でおよそ4万人、北海道では1500～1600人、札幌市では700人程度と推定されるが、潜在的患者も多く実態は不明確。

北海道若年認知症の人と家族の会

通称「北海道ひまわりの会」。全国で先駆的な若年認知症家族会の活動を展開していた東京の「彩星の会」の宮永和夫先生や干場功代表（当時）の支援により、2006年（平成18年）9月に30家族・支援者29名で発足した（初代会長は弘宣の父木村邦弘）。現在は当事者家族101名、支援者133名の234名の会員（2014年4月現在）を擁する全国有数の若年認知症家族の会に発展。主な活動は、本人・家族による交流の“つどい”、電話・来所による相談活動、広報「ひまわり通信」の発行、若年認知症に関する啓発活動など道内全域で多彩に展開している。

ありがとう、お母さん

近頃のお母さんは、とても柔和な顔をしています。若い頃のお母さんの顔は、目元がキリッとしていて、写真を見ると、いつもしっかりと「カメラ目線」です。姉がよく「お母さんは写真写りが良くて羨ましいな」と言っていたことを覚えています。
しかしそれは、今にして思えば、いつも慎重で繊細なお母さんの心の不安を包むための精一杯のポーズだったのかもしれません。
今、認知症になって、そういうものが取れて、ありのままの柔和なお母さんの顔が現れたのでしょうか。
そんなお母さんも、喜怒哀楽が豊かなところは、僕が幼少の頃と少しも変わりません。
幼稚園の発表会のお遊戯で、とても心配していたが、ぼくが周りの子供たちと同じように踊っているのを見て、感激のあまり涙が止まらなかったことを、よく話していました。
このように、豊かで繊細な感受性が故に、病気の発症のときのお母さんの苦しみは計り知れないものだったと思います。今まで普通にこなしてきた家事ができなくなり、合唱サークルの会場も分からなくなった恐怖と悔しさ……。
今も僕の心の中には、お母さんの優しい子守唄が、ずっと奏でられています。
たくさんの愛情を持って育ててくれたことに感謝しています。
ありがとう、お母さん。（木村　弘宣）

木村邦弘著「ひまわりのように」より　平成二十年七月

彩星の会へのメール

彩星の会

送信者：　"Hironobu KIMURA"<hiro-consa11p@jcom.home.ne.jp>
宛先：　<star2003@smile.ocn.ne.jp>
送信日時：　2005年7月5日　21：21
件名：　彩星の会家族会入会希望です。【干場　功様】

干場　功様

はじめまして。北海道札幌市在住の木村弘宣と申します。26歳です。
実父と実母と3人で同居しております。
52歳になる母が2年ほど前から認知症にかかっております。
現在、週5回ホームヘルパーを利用しています。
本人が一番辛いと思いますが父のことも心配です。
この度、インターネットで若年性痴呆に関する家族会を探したところ、貴会のサイトにたどり着きました。
母の状態は相変わらずです。散歩によく行きたがります。
父や私も休みのときは一緒に散歩しますし、ヘルパーも散歩に連れて行くことが多いです。
散歩はいいことだと思います、ただ、一回散歩から帰ってきて数分後にまた散歩に行こうと言われると正直きついです。
でも、意欲があるということは尊重したいと思います。

北竜町の町長さんが若年性の認知症でございますか。9月の講演会には姉と参加します。
北海道での家族会の設立については、私も切望しております。
そして、同じように思っている方は道内にも結構いらっしゃるかと思います。
設立にあたっては、是非協力させて頂きたいと思います。

それでは、今後ともよろしくお願いします。

木村　弘宣

発足総会　2006.9.24
場所：札幌医大　記念ホール
本人・家族やサポーターを含めて60人が参加し、家族会が正式に発足。

いつまでも忘れないよ

大切な想い出ありがとう

姉弟の関係を文章にするのは、少し照れくさいですが、思うのは、一緒に過ごした時間が、今でもワンシーンずつ胸に刻まれています。手を取り合って、母の仕事帰りを迎えに行った冬の日。ケンカして泣かせてしまった日。大学の合格をともに喜び合った日。我が家によく訪れて、子ども達と遊んでくれた日。きっとこれからも、優しい家族想いの弘が、若くて何事にも一所懸命な姿のまま、私の心の中で生き続けることでしょう。大切な想い出をありがとう。

姉　亜紀子

ひろのぶおじさんへ

ぼくが初めてあったときは、すごく大きくてたくましかったです。
ぼくは、おじさんが福祉の仕事で働いていたことはわかっていました。
ほかにも、サッカーもやっていたのですごかったです。
ぼくは、時間があいているときいつもおじさんとサッカーをして楽しかったです。
こまったり、悲しいときは、いつもなぐさめてくれました。
でもそんなことがおきるなんて思いもしなく、ショックでした。
こんどは、できれば「天国」のサッカー選手になってください。
今までほんとうにありがとうございました。

太田　瑞季（小学6年生）

な、なんで死んじゃったんだ。
ぼくは、おじさんがほねになったらないちゃった。

太田　響（小学3年生）

のほほん工房「ハッピーライフ」寄稿　（平成15年11月）

キムキムの就労体験記

木村弘宣

私は、平成13年3月、北海道内の大学を卒業後、首都圏の大手ソフトウェア開発会社に就職した。もともと、ジャーナリストの仕事に憧れていて、就職活動もマスコミ関係の会社を中心に回っていた。しかし、採用試験はうまくいかなかった。結局、受験したマスコミ関係の会社は全て不採用となった。私は、自分の適性のなさを自覚し、夢をあっさりあきらめ、内定をもらっていた先述のソフトウェア開発会社に入社することとなった。

就職は決まったものの、モチベーションは低く、周囲には「ずっとあの会社にいることはないから」と言っていた。ただ、会社で技術を盗んでやるという思いは抱いていた。あとは、親元を離れるウキウキした気持ちでいっぱいだった。頭の中は妄想だらけだった。

◇◇◇

そして、平成13年4月に入社した。1カ月ほど新人研修があり、そこで最初の劣等感を抱くことになる。プログラミングの研修では、完全に遅れを取り、居残ってC言語のプログラムを作っていた。

5月に配属が決まり、上司の元について本格的に仕事が始まった。上司はとても親切で楽しい人だった。他の先輩も最初は優しく接してくれた。しかし、仕事でミスを連発し、次第に周囲の視線に冷たいものを感じるようになる。

仕事でわからないことがあっても、先輩に聞くことを恐れていた。先輩の方から、どんどん質問していいよと言われても、どこをどう説明したらいいのかわからず、なかなか聞けなかった。それぞれが忙しそうで、気がひけた部分もあった。

少なくとも、チームで仕事に取り組んでいるという意識があれば、こんなことにはならなかったのかもしれない。自分ひとりで仕事を抱え込んでいた。

そんな状況が続いていくうちに、「うつ」が表れ始める。考える気力がわいてこなくなり、たまに仕事を休むようになったのだ。その頃には、精神保健福祉士の仕事に就きたいという思いが生まれていた。すでに、自分が競争社会、効率主義に合わない人間ということには気付いていた。徐々に、会社をいつ辞めて、学校に入学しようかということが頭の中を占めるようになる。ますます仕事に身が入らなくなる。

ただ、私にとって、社外に友人がいたことが救いだった。特に、小学校のときから付き合いがある親友も東京で暮らしていて、職場での辛さも話していた。友達とサッカーやカラオケをして遊びながら、気を紛らわせてもいた。一方で、会社の人間に相談してもあてにならないという思いが強かったことも確かだ。

◇◇◇

結局、入社した年の12月に会社を辞めることとなった。当時、戦力にならないまま辞めることに相当な引け目を感じていた。

私は、平成15年5月から「のほほん工房」の職員として働かせてもらっている。所長に就労体験談を話したところ、私の会社での失敗は、対人能力の低さに起因していることに気付かされた。対人能力は、コミュニケーション能力につながってくる。確かに、私はコミュニケーションが不得手だ。それがうまくできていれば、仕事の疑問点もきちんと先輩に伝えることができたであろうし、できないことを自分一人で抱えるようなこともなかったであろう。

コミュニケーション能力は、現在の職場でも重要である。何しろ、言葉一つで人の命にも関わってくる世界なのだ。前の会社にしろ、今の職場にしろ求められているものは何も変わらないのである。

◇◇◇

今は、「のほほん工房」で働けることに幸せを感じている。私自身、この作業所に無限の可能性を感じているのだ。スタッフ―メンバー間の壁は無く、フラットに付き合える雰囲気があり、一人ひとりがのびのびと自己表現できる場だと思う。私が東京の精神保健福祉士養成校を卒業後、就職活動で途方に暮れていたときに、この作業所が職員募集をしていたことは、自分にとって本当に幸運である。

私が柱になって、共同住居を設立するという話も出ているが、まずは作業所の中で、自分のできることを積み重ねていき、少しずつ仕事に対し自信をつけていきたい。そして、自分一人で問題を抱え込まず、時にはメンバーや職員にも助けを借りるようにしていきたいと思う。「皆でやる」ことを大切にしていきたい。

「就労」は、私にとっても永遠の課題となりそうだ。

有老協道連絡協議会主催

さりげないケアの実践講座参加レポート

事業所　イリスもとまち　　部門　2F 介護　　氏名　木村弘宣

平成 22 年 2 月 26 日

Ⅰ.「コミュニケーションとは」

＊講義から学んだこと

コミュニケーションの伝達について“バーのSMCR モデル”が紹介されました。送り手と受け手それぞれのコミュニケーション技能や知識、社会文化的脈絡の違いで情報が正しく行き渡らないことを学びました。また、コミュニケーションが誤解される要素がいくつか挙げられ、「不明確な言葉を補って伝える」「相手に対する不快感を持っている」「思いこみの枠にはめて聞いているとき」「非言語的なメッセージを見落としたとき」など日常の中でよく起こることから、新しく認識したことまで学ぶことができました。

＊職場に戻って実践したいこと

入居者や同僚とコミュニケーションをとるときには、常に「正しく」伝えることを意識したいと思います。講師の方が話されたように、相手の特性によって伝わり方が違ってくるので、できるだけステレオタイプ的な見方を排除し、客観的に関わるよう努めたいと思います。

言葉を必要以上に省略したり、不明確な言葉は使わないようにし、相手の話を聞くときには注意を傾け、態度・表情・しぐさも情報として見逃さないようにしたいと思います。

Ⅱ.「生活の場における介護」

＊事例研修発表Ⅰ「認知症周辺症状と身体拘束廃止に向けての取り組み」から学んだこと

車イスからの転倒リスクがある認知症利用者のＹ字帯使用の是非に関するお話を聞きました。結論から言うと、主治医より、使用すべきと指示があって、使う方向になったとのことですが、それに至るまでは、「切迫性」「非代替性」「一時性」という大きな３つの観点を踏まえた検討というプロセスを経ているところが大切な点だと思いました。

「身体拘束」については、その人の「安全・安楽」との兼ね合いを考慮すると、完全に撤廃するのは難しいのが現状だと思います。もちろん、その人の人権を尊重することは大前提です。

「Ｙ字帯」が身体拘束かという社会的な議論も今後深めていくべきではという考えも持っています。

＊事例研修発表Ⅱ「生活の場におけるさりげない動作への気づきと工夫」から学んだこと

担当の方より、「生活リハビリ」の事例についてのお話がありました。最も印象に残ったのは、認知症利用者には専門家などが用意したプログラムよりも、トイレなど日常生活の中にリハビリの要素を組み込んだ方が、利用者に入っていけるというお話です。私が担当しているイリスもとまち２階の入居者の何名かを思い浮かべ、納得させられました。トイレ・食事・整容については、特に考えなくても自然に昔から行っていることであり、またそのことが立位の維持であったり、身体の様々な機能の維持につながっているので、まさに「リハビリ」であるのです。講演の翌日から早速、「生活リハビリ」を意識して、入居者に関わるようにしました。

＊その他自由レポート

先日、2 階の入居者さんがお亡くなりになったとき、夜勤として関わりましたが、「看取り」の意味について、肌で感じることとなりました。事前に家族からは救急連絡しないという話が出ており、それに則して対応しました。あくまでその人の人生観に最後まで向き合っていくのが、自分の仕事なのかなという思いを抱いております。

「A 氏の危機介入事例検討会報告」より

平成 24 年 11 月 16 日　訪問看護ソーシャルワーカー　木村弘宣

実際の訪問で、メンバーが死亡していたり、倒れていたり、自傷・他害行為、暴力行為があったり、行方不明になるなど様々な危機に直面する可能性が考えられます。こうした危機対応での混乱を防ぐよう、事前に情報収集を行った上で、私なりに介入手順をシミュレーションし、報告させて頂きたいと思います。

メンバー個々によって介入の仕方が変わると思われるので、今回は「A 氏」のケースとしてシミュレーションを行います。PSW の皆様には、貴重なお時間を割いて頂くことになり誠に恐縮ですが、一緒に事例検討して頂けると幸いです。

A 氏については、東日本大震災後の平成 23 年 3 月 18 日の外来受診時に裸足で逃走し、凍傷を負った状態で警察に保護された経緯があります。当院利用前の 26 歳時には、伯母宅で暴れ、自傷行為があったという情報もあります（本氏カルテより）。精神状態が悪化すれば、突発的な逃走を図ったり、自傷他害、最悪の結果として室内での死亡も想定できるかと思います。

上記逃走前日 3 月 17 日の訪問記録によりますと、室内の散乱、TV が砂嵐のまま、会話が支離滅裂という状況が見られ、本氏は当日の受診はせず、訪問スタッフとの間で、調子の悪い時は外来に相談するなど約束事を交わしたとのことでした。カルテによれば、訪問スタッフの促しの通り、翌日外来受診されましたが、そこで入院を促されたことに反発し逃走されたという経緯でした。

私の訪問看護での本氏との関わりは一カ月半ほどですが、この短期間でも、目つきの鋭さ、表情の硬さ、ムズムズ感の有無といった状態の違いが著明に出ており、状態の波の大きさを感じます。それでも、上記の訪問記録のような状態は見たことがなく、明らかに異常であり、危機介入すべき状況だと思います。

以後、私が考えた A 氏の危機介入の流れについて説明しますが、昨年 3 月 17 日訪問時と同様、会話が支離滅裂で、室内が散乱している状況を想定します。

〈A 氏の危機介入の流れ〉

A 氏は、過去の記録あるいは私が現在関わっている様子からして、警戒心が相当強い方と思われます。特に、上記の逃走の件もあり、「入院」に対する警戒は強いと見られ、精神状態が悪化した状況下で「入院」を意識させてしまうと、興奮が極度に高まり、暴力、自傷、逃走などの危険行為が起こるリスクも高まると思われます。

こうした危険行為に至らないよう介入するにあたり、まず、スタッフとして冷静さを保ち、本氏の自尊心を尊重しつつ（例えば、「A さんならきっとわかって頂けると思って説明させて頂きますが」と前置きする）、いつもと違う状態であることを説明します。そのうえで、「通院」で済ませられるような話の流れ、「服薬調整」「点滴」をキーワードにして話を進めて行きます。

A 氏は、不調時には、頓服を服用したり、薬の調整を担当医に相談されており、服薬によって生活が維持されていることを理解されている様子です。それでも状態が悪いときは、外来へ行き本氏の希望にて点滴を受けられています。点滴について本氏は「楽になります」と話されており、効果を実感されている様子です（最近は点滴に頼らないようにしているとのことです）。服薬調整や点滴ができると思えば、本氏の気持ちが幾分楽になるかもしれません。本氏の表情の変化などから判断して、話を受け入れている様子が確認できたところで、外来受診を促す流れになります。

それでも状況が変わらないようであれば、本氏を刺激しないよう、訪問を切り上げることになろうかと思います。帰り際には、再度受診の促しを行います。

いずれにしても、訪問後には、上司及び外来へ情報伝達を行います。

道新インタビュー記事より

シニア　働く　健康　**支え合う**　お金・消費

札幌・「援護寮」職員刺殺事件から3カ月

安全管理の徹底を

被害者の父・木村邦弘さんに聞く

自立阻む規制しないで

札幌市白石区にある精神障害者の自立を支援する「援護寮元町館」で、職員で精神保健福祉士の木村弘宣さん=当時(35)=が入居する男(38)に刺殺された事件から3カ月。自立を目指す人たちが地域社会の中で暮らすための施設で起きた悲劇に、木村さんの父邦弘さん(68)は「なぜ、息子は殺されたのか」と自問自答の日々を送る。逮捕された男は今月19日、精神状態や責任能力の有無を調べる鑑定留置を終えたばかり。職員の安全確保を訴える邦弘さんに胸の内を語ってもらった。併せて道内の同様の施設の取り組みや専門家の意見も紹介する。

(上田貴子、貝沢貴子)

弘宣さんの遺影を前に、「職員の安全は確保してほしい」と訴える父の木村邦弘さん=札幌市内の自宅

――長男の弘宣さんの命は突然奪われました。

「事件当日の夕、元町館から息子のヒロ(弘宣さん)が刺されたと連絡があり、市立札幌病院に駆けつけました。ヒロは顔中血だらけで、医師から『お亡くなりになりました』と告げられましたが、あまりのことで、何を言っているのか実感がわきませんでした」

「ヒロは加害男性の担当職員でした。男性を虐待したり、乱暴なことを言って恨みを持たれたりするようなことがあったのか、施設に聞きましたが『全くない』と言われました。施設によると、男性は事件前『死ね、死ね』と幻聴が聞こえたらしいです。死ぬ時に1人は嫌だからヒロを道連れにしたのかもしれません」

――事件について思うことは。

「精神障害者の施設で働く職員が殺害される、ということはあってはならないことで、理不尽です。一方で、ヒロはこの仕事を『一生の仕事にしたい』と言っていました。精神障害者の自立につながるので、やりがいを感じていたのでしょう。それを思うと、このような事件を機に遺族や社会が厳罰化を求めたり、精神障害者の自立を阻むような規制をしたりしてはならないと思います」

――息子さんはなぜ、精神保健福祉士になったのですか。

「ヒロは小樽商大を卒業後、システムエンジニアとして関東で就職しました。でも、仕事が合わず8カ月で退社しました。その頃、私の妻でヒロの母の雅子(66)が若年性認知症になりました。母親のような人を助けたいと、専門学校に入り直し、精神保健福祉士の資格を取ったのです。当初は、札幌の高齢者施設に再就職したのですが『心の病がある人のために働きたい』と転職したのです」

「優しい息子でした。休みの日は必ず母親のいるグループホームへ行き、介護していました。家族の中でも大きな存在で、ぽっかり空いた穴をどう埋めればいいのか分かりません」

――息子さんのような悲劇を繰り返さないために、どうしたらいいのでしょう。

「運営する法人は職員の安全をどう守るのか考えてほしい。精神障害者の方も加害者になってしまったら、人生は損なわれます。刃物の管理や、職員が入居者の部屋を訪問する時は2人一組で行くなど、事件を起こさせないための態勢づくりが必要なのでは。一方で、管理を厳しくして自立の妨げになってもいけないと思います。職員研修のあり方など、ほかにも改善点はあるでしょう。ヒロの死が無駄にならないよう、精神障害者の当事者団体や家族会、職員、精神科医とこの問題について一緒に考えていきたい」

＜事件の概要＞

今年2月27日午後3時40分ごろ、札幌市白石区の精神障害者の自立支援施設「援護寮元町館」で、職員の木村弘宣さんが入居者の男に首を刃物で刺され、死亡した。

元町館を運営する札幌の社会医療法人共栄会が父の邦弘さんに説明した話では、男は過去に精神疾患で病院の入退院を繰り返していたが、事件当時の症状は安定していたという。

有田矩明理事長は、事件について「今後このようなことが二度あってはならない」とコメント。取材については「遠慮させてほしい」と文書で回答した。

北海道新聞 5 月 23 日朝刊
“せいかつ” 欄掲載

葬儀集合写真（平成26年3月1日コープさっぽろフリエホール）

あとがき

息子弘宣が旅立って百日が経ちますが、あまりに突然のことで未だに信じられません。時折「あのね、ヒロ…」と声をかけて、「あっいないんだ」と苦笑いすることもあります。それでもこの間に多くの方々から弘宣との思い出の言葉を頂き、少しずつ現実を受け入れるとともに、その生きた証を記憶に留どめるために「追悼集」を上梓することとしました。

しかしながら、35年間の息子の等身大の生涯を埋める作業は思いの外難航し、あたかも大きなジクソーパズルのピースを繋ぎ合わせるかのようでした。何とか外観を構築しましたが、息子の内心を埋める最後のピースが見つからず未完のままタイムオーバーとなってしまいました。遺された父親の務めとしてそのピースを捜し続けたいと思います。

この「追悼集」を編集するに当たっては、親友川端秀憲様をはじめ、日本福祉教育専門学校・「のほほん工房」・「イリスもとまち」・援護寮「元町館」・フットサル「Ｖｉａｎｃｈｅ」の仲間の皆様には多くの資料や写真の提供を頂き深く感謝申しあげます。又、㈱アイワードの柿木様には雑駁な素材を丁寧に編集して頂き厚くお礼申しあげます。

平成二十六年六月六日
（息子弘宣百箇日）
木村　邦弘

優しさと笑顔に感謝

故　木村 弘宣　追悼集

発行日 ● 平成26年6月6日
発行者 ● 木村　邦弘
印　刷 ● ㈱アイワード